

「常緑広葉樹の落葉(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

タイサンボク以外にも、学内には常緑広葉樹が多数存在する。思いつくものだけでも、スタジイ・ツバキ・クスノキ・・・まだありそう。イチョウ並木の突きあたり、講堂前にあるキンモクセイも常緑広葉樹だ。



初秋にはこのキンモクセイの樹の下に、たくさんの橙色の花が落ちるが、今の時期に落ちているのはキンモクセイの葉である。



こちらは、附属中学校前にある高木、サンゴジュである。庭木として好まれるほか、葉に水分が多く、防火作用があることから、生垣に利用されることもある。



サンゴジュ *Viburnum odoratissimum* は5月に花を咲かせる。残念ながら、私が観察に行った時は、まだつぼみだった。しかし花序(花の付き方)は、つぼみの時のほうがよくわかる。サンゴジュは、枝分かれた先端に、また枝分かれして小さな花をたくさんつける。「総状花序」の先端に、もう一度「総状花序」をつける形だ。このような花序を「複合花序」と呼び、サンゴジュのような型は「円錐花序」と呼ばれている。サンゴジュ(珊瑚樹)の名のいわれは、赤い実がたくさん実る姿からと言われる。しかし、開花した姿が白い珊瑚にも見える。



サンゴジュの樹下にも、たくさんの落葉が見られた。「常緑樹が見せる、春の落葉」・・・これは、小学生に植物の生活を考えさせる上で、なかなか面白い教材になりそう。